

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教172年
8・9月号

こどもおぢぼがえりを 振り返って

今年も「こどもおぢぼがえり」が、7月26日から8月4日までの10日間に亘って賑やかにつとめられました。今年は毎日のように雨が降り、うるおいをいただきましたがその影響かどうか室内行事が盛況で特に、伏せこみ行事のおやさとかた講話や廻廊ひのきしんが賑やかでした。大教会では、最も早い隊が26日から、各ブロック、教会単位での帰参が次々と続き、詰所は、連日子供達の明るく、元気な声とともに活気のある毎日でした。今年も大きな事故やけがもなくありがたいことでした。また、今年も育成部による朝のおつとめ、ラジオ体操、目標発表などがありケジメのある日課となったようです。お楽しみの一環は、なんといつでも中庭での模擬店でした。やはりフライドポテトやかき氷は、おやつ定番で人気があります。また、今年から始めたポップコーンも味がいい

1,716人が喜びの帰参

172年
こどもおぢぼがえり

布教の一環として全教会の参加を！

いと評判が良く、ポップコーンをほおぼりながら新登場の射的をするこども達の姿はほほえましいものです。おなじみのクイズも大好評で、詰所のあちこちで友達どうしで楽しく相談したり首をひねったりする姿がみられました。また、詰所玄関前に漫画や迷路、おやさま逸話編の看板などが設置され子供たちも看板の前で記念撮影をするなどしていました。

ところで、ことしも直轄、福山、高屋、島根の4鼓笛隊が日頃の練習の成果をお供え演奏しました。また、オンパレードでは直轄隊と高屋隊が三年連続で金賞に、また福山隊が初の金賞を戴きました。島根隊も限りなく金賞に近い銀賞でした。おめでとうございます。

全教会からの帰参という目標についての結果は、帰参118隊、未帰参20隊でした。残念ながら昨年より未帰参教会が増えました。しかし、わかぎ参加者がだんだん増加しており、これは良い傾向です。大教会として来年に向けての取り組みを期待しま



す。
全教の帰参者総数は、243、744人。
笠岡団は、1、716人でした。各教会のみなさま、大変こころうさまでした。詰所のみなさま、ひのきしんのみなさまお世話になりました。ありがとうございました。

(少年会笠岡団団長 中島 誠 治)

子供おぢば帰り

実行委員会三部

今年もおぢば帰り期間中、詰所に宿泊した子供達にも喜んで貰える様、育成、ひのきしん、行事の3部は楽しみに子供達の帰参を迎えさせて頂きました。

育成部は主に朝のおつとめ、ラジオ体操、おやすみ行事、わかぎひのきしん。ひのきしん部は主に詰所の看板の責任、取り付け。行事部は模擬店、クイズ、ビデオ上映等。実行委員会は4月頃から既に準備に入り、何度も相談、会議を重ねて本番を迎えた訳ですが、毎年新しい企画やアイデアが無いが試行錯誤しています。今年の期間を通して気づいたこと、来年に向けての要望などありましたらご意見下さい。また、来年おぢばに帰って来た笠岡に繋がる子供達に喜びの一つでも多く持つて帰って貰える様だと思います。模擬店に関して多くは多くのひのきしんの手を有難うございました。クイズの正解者につきましては本人への図書カード手渡しをもって発表とさせて頂きます。また来年ご応募をお願いします。

(こどもおぢばがえり実行委員会 上原志郎)

別席ひのきしん団参を目指して

10月25日(日)・26日(月)

今年5月、別席ひのきしん団参の成果を誓いその理作りとして
603名の参加を得て勇んで用木決起大会を行いました。

正に理作りの結実としての別席ひのきしん団参を成功させましょう。

1000名を目指しましょう!

……………各教会10名以上目標

また別席(初席、中席、満席)1名以上を

目指しましょう。

《おつとめ・回廊ひのきしん》

日 時 10月25日(日) 午後1時半 集合

会 場 西礼拝場(北側)。

拍子木を入れて行います。

おつとめ終了後、回廊ひのきしんを行います。

その後自由解散します。

《お帰り講話》

日 時 10月25日(日) 午後7時

会 場 笠岡詰所北棟3階講堂

講 師 松尾 真理子 先生(加古大教会長夫人)

《秋季大祭》 10月26日(月) 午前8時

第67回 英語講習会開催



海外部

今年ゲストに海外部人材育成課のマイケル雪本先生(24歳)をお迎えして、8月7日より1泊2日で講習会を開催させて頂きました。ゲーム、生活、語学担当の多才なスタッフ10名と、小学、中学、高校、一般の25歳までの14名の参加者がそれぞれのレベルに合ったクラスに分かれ、目標を持って進む賑やかな講習会を持つことが出来ました。期間中、英語のゲーム、コンピューターを使った勉強、映画、講師の講話、コンテストなどを通して終始前向きな姿勢で取り組む参加者の姿が印象的でした。全く話せなかった初心者も英語で自己紹介を、また上級者クラスでは簡単な英会話を2日間で習得出来たことが大きな驚きと喜びになった様でした。

この講習会を通して英語の勉強だけでなく、将来の海外布教師や国際人となる人材育成のお手伝いが出来ればと思っています。来年も大きな視野で身のある講習会に出来ればと思っています。有難うございました。

(海外部長 上原志郎)





8月29日から9月6日までの全分会布教推進週間を、各分会、各ブロックごとに活動いただきまして、誠にありがとうございました。参加してくださった皆様それぞれが、神名流し、路傍講演、戸別訪問、ひのきしんなどを通して、良い「にをい」をかける事ができたのではないのでしょうか。

キャラバン隊での活動は、8月29、30日に島根方面に、回らせていただきました。また、8月31日から9月4日までは、笠岡、井原、福山、府中の各市内中心部で、神名流しを行いました。これらの活動は、開始時間を夜7時と設定したせいもあり、仕事終わりに参加する方の姿も見られました。拠点としてお借りしました教会の皆様、ご協力ありがとうございました。

様々な課題と収穫のあった布教推進週間となりましたが、また来年以降、より充実した活動を目指しておりますので、どうぞ皆様よろしくお願ひいたします。

(青年会笠岡分会委員長 上原 繁次)

山陰路を駆けめぐる青春！

8月29日～30日に、青年会全分会布教推進週間の一端として山陰地域で、笠岡分会委員長(上原 繁次)はじめ7名と地元会員等のキャラバン隊が、米子市駅前では「路傍講演」「よろづよ八首総立ち」「神名流し」を皮切りに、境港市の「水木ロー

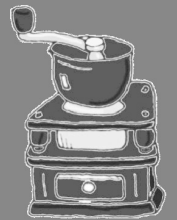
ド」で、観光客の中を行進！ かるやかな拍子木の音に足を止めて聞入る姿も、戸別訪問では聞きなれぬ言葉に戸惑いながらもリーフレットを渡した。汗と誇り(埃)にまみれた若者達は、島根分会で「焼肉」を頂きながら、疲れもはじらいも忘れて明日への鋭気を養った。

翌30日朝、笠岡より駆けつけたメンバーを含め25名の大キャラバン隊は、松江市内の四季ヶ丘団地へ神名流しと戸別訪問を展開。更には亀田山分教会の会長様・奥様・お子さんも参加して、市内中心部へ、二手に分かれて神名を流してアピールした。時あたかも「24hテレビ・スタート！ 一歩踏み出そう！」を開催しているその前や、島根大学の前、目抜き通りを元氣よく行進する「天理王命」の幟が、一層の注目を浴びた事が大きな収穫だ。午後からも雲南市大東町、出雲分教会に立ち寄り、閑静な町内に神名を流した。

島根分教会会長様から、「本当にご苦労様でした。今回、スタート！ 一歩踏み出そう！」との全国チャリティテレビの標語が、青年会員達が流してくださった一歩を物語っています。これが続けるように地元青年会を指導して行きたいものです」とのコメントを戴きました。

天理教青年会笠岡分会 上原繁次委員長一行キャラバン隊は、山陰路に清涼な風を吹流し、互いが達成感を得た爽快感を感じ取り：：笠岡へ：：。

談話室



富士山

福満分教会長 福島 大介

「あたまを雲の上に出し」のフレーズで始まる「富士山」。文部省唱歌として昔から小学校の教科書に載っているので、歌ったことのある人は多いと思う。私は、東海地方に足を運ぶ機会はないのだが、偶たまに新幹線の車窓から富士山の勇姿を臨むことが出来たときは、なんだか好いことがありそうな得をした気分になるのだ。しかしながら、見たことはあっても登ったことはなかった。ということ、予かねてよりの念願を果たすべく、大教会の学生会行事「富士山登山」に便乗させてもらった。

八月二十六日夜から二十七日朝にかけて行われた富士山登山の参加者は、学生二名、教会長七名、運転手二名の総勢十一名。四本ある登山ルートの中から我々の選んだ「富士宮ルート」は、歩行距離こそ一番短い傾斜が他のルートよりも急で、延々と険しい九十九折の道が雲を突き抜けて天空

へと続いていた。

午後十時過ぎ、新五合目から登り始めたのだが、この段階で二千四百米を超え、日常では体験できない高さ。気温は九度。歩を進めると、真夏の蟬のように星の大群が喧やかましい。六合目手前で後ろを振り返ると、麓の街灯りがこちらも海に落ちた星のようにさざめく。足下は砂礫や岩がゴロゴロして歩いて歩みにくいこと甚だしい。そして標高三千米。ゆっくり歩いても、小刻みに休んでも、直ぐに息があがってしまうのは、空気が薄いかからか。私は高山病にかからないよう、常に呼吸を意識した。そのため、高山病も足の痛みもなく、なんとか山頂に辿り着くことができた。

辿りついた時刻は午前四時半。気温は三度。静寂の中の美しい色の世界。群青色の空が東の方から紫色に染まり、それを橙色の光の帯が真まっまつつに分けている。そして遂に五時過ぎ。雲を蹴散らして御来光様がやってきた。誰もが狂喜の歓声をあげた。気づくと、



百人、二百人、いやもっと沢山の人々。なんとも皆幸せそうな顔が光を受け輝いている。

美しい情景に心奪われた後、ふと我に返ると一人だ。笠岡御一行様の姿が全く見えない。近くの山小屋でS郡の会長さんと学生が弱ったクワガタムシのようにカップ麺を啜すすっているのを発見。他の人は既に下山したと聞いた。

私は一人で「馬の背」と呼ばれる赤茶けた斜面を更に登り続けた。あと少し。その先に『日本最高峰 富士山剣ヶ峰三七七六米』の石碑が見えた。

ここが日本で一番高い所だ！頂から見のお鉢(火口)は葉をいっぱい溜め込んでいる。私は思いきり深呼吸した。

さて、新五合目まで下山して、笠岡御一行様と無事合流。私の富士登頂顛末記も幕を閉じる。

ところで、ずっと運転をして下さったJ分教会の会長さん。ありがとうございます。機会があれば、次回は一緒に富士山を「上下」しましょう。

小学水泳 全国大会

トビウオでメダリストに!

森山兄弟大活躍(天理市・瑞雲分所属)

8月1日～2日に小学生の水泳全国大会第24回「とびうお杯」が浜松市で行われ、男子100mバタフライ決勝で堂々の5位に森山将大(天理市小路町・瑞雲分)が入賞した。天理小学校の名誉を全国に知らしめ「立派なにをいがけ」と校長先生から賞賛を頂き、以前にはあの「北島康介選手」からも激励を受けたスイマーだ。父恭二(天理図書館勤務)の子は、広大(中2)将大(小6)りお(小4)優大(小2)4人兄弟みな郡山スイミング所属。

先ごろの西日本私小連記録会でも、50m・100mに新記録の金メダル。兄の広大も近畿大会で金メダル! 他の兄弟も記録の保持者。近い将来に世界のメダリストになるよう切望されている。その為には、基礎体力や精神力の強化など毎日が競争だ!

森山家(島根県三刀屋町)の信仰初代は農家の長男 稔則、瑞雲分の初代会長の導きで、素直な信仰で教会創設に大きく寄与された。その稔則の次男が天理高校二部の英語の教師に、弟の春夫が同校の事務職を勤めた。春夫の長男が「FW森山啓太!」彼は知る人ぞ知る? 天高ラグビー部で花園優勝! 天理大学からサントリーへ、そこでも活躍した。

次男の恭二は身上からラグビーを断念した。

毎月25日の講社祭は、祖父母と8人揃って勤めます。子供達は講話にもしっかりうなずき「素直」な態度は家訓どおりで「親が通ったから子が通る」彼らの両親、恭二夫婦は親孝心の鏡のようである。地場の理を戴くとしても、次男で継承した家督。子育ては「アメとムチ」で厳しく仕込み、自分が出来なかった部分を押し付けるので



はなく、夫婦の思いが「子供の時は理屈が解らない」ゆえに“痛い仕込み”で覚えさせておく、と言うものだ。筆者も共感であり、夫婦の笑顔が「陽気の根源」である、新居にふさわしい家族だ。

8月6日、瑞雲分教会の祭典。「家族揃って教会参拝」を、夏休みの部活…スイミング…その都合をつけての帰会だ。それぞれが鳴物、地方にお手振りに、少年会員も汗を流して勤めてくれて「日頃のお礼やから…」と、教会の皆が顔負けの態度に、爽やかな涼風が吹きぬけたようである。御霊舎の初代さん達も、今日を夢見て、我を忘れて苦難の道中をお通り頂いたおかげであろう。そして、これからの未来に、今やらなければ成らないのが次代への伝道、我を忘れるほど真剣に「御用の上」へ通って頂きたいものです。

そんな瑞雲の誉れの彼らに、初代の心を形にと、沢山あるメダルや賞状の「陳列ケース」を贈ることにしたが、この先そこに入りきれないほどの賞状やメダル、トロフィーが…やがて世界チャンプの金メダルを…そして教祖の右翼として教会へ…初代どころか今の筆者にまで夢を見させてくれて…ありがとう! (文中敬称略:に)

七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には子供かわい第一条の親心から 只一列子供陽気ぐらしを楽しみに天然自然のお働きや身体を御守護下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに「めへくのみのうちよりのかりものをしらずにいてはなにもわからん」とのお言葉通り 全て我のものと思ひ誤り 勝手気儘に使い 当たり前に流され喜び感謝の心を失って ついには人も自分をも傷つけ苦しみに喘いでいる人が多くいます事は誠に残念でなりません 道にお引き寄せ頂きました私共は 真の親心を知り どんな中も「成って来るのが天の理」と喜びと感謝の心を深めつつ 日々は朝夕に御礼申し上げると共に たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は七月の月次祭を執り行う日柄でございますので おつとめ奉仕人一同 喜び心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には梅雨最中の蒸し暑さも厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお継りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて子供おぢば帰りを目前に 親神様教祖に少しでもお喜び頂き 加えて一人でも多くの子供に親の息をかけて頂きたいものと募集の上に精一杯つとめさせて頂いております 今年例年に加え 新型インフルエンザも心配の種類になっておりますが 親に凭れ勤め切らせて頂きますので 何卒事故・怪我等なく 喜び一杯の内にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます 又八月は子供達だけでなく 大人も休みが多くなり 親子で接する機会も多くなりますので 単に遊びに時間を費やすだけでなく 親・先祖や信仰について話し合う機会とさせて頂いて育成に力を注いでいく所存でございます

何卒親神様には親子の断絶が加速する世の中にあつて むしろ親子の関係を深め 親孝心一筋に御恩報じに徹する皆の誠真実の心をお受け取り下さいます 願う心の誠の理に自由の御守護を賜り 親子共々に睦み合う神人和楽の世の状が一日も早く実現しますようお願い申し上げます 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護と成人へのお導きを頂いて 日々は結構に恙なく生活くわさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに多くの人々はその理を知らず一人一人が勝手気ままに生活くわし助け合うどころかお互い傷つけ合っていることにさえ気付かずにいる状を御覧になり 残念と思召され 心得違いを気付かせ 陽気ぐらしへと導きたいとお現し下さった地震、大風、水つきにより 又被災者が出てしまった事は誠に残念でなりません これも一つには 私達道の子の成人の歩みの足りなさゆえと反省しつつ 私共は親神様の御守護を感じ 日々は朝夕に御礼申し上げながら 世界一列助けたいとの思召に応えるべく たすけ一条の御用の上に 勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はお許し下さいました八月の御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同助け心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には暑さ厳しき中も厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達のおつとめに寄せる真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又今年の子供おぢば帰りには国の内外より二十四万人を超える人々が帰参し 内笠岡からは千七百人余りが帰らせて頂きました 新型インフルエンザの脅威があり 加えて八月に入っても梅雨が明けず連日雨に悩まされる等大変心配の多いものでしたが大変な事故・怪我もなく喜び一杯にお連れ通り下さいました事を改めて御礼申し上げます 更には又大雨により各地で災害が発生し多くの方が被災されました 夫々に災害救援ひのきしん隊が出勤し笠岡からも多くの人が参加し 救援活動に当たらせて頂きましたところ 暗闇に明かりを灯すが如く被災された方々に僅かでも喜びと活力を持って頂けたことを御礼申し上げます

さて九月はにをいがけ強調の月との声を掛けて頂いております その思いに応えるべく用木との自覚を高め 御恩報じの思いを強めて 一軒でも多くにをいがけに邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には句々にお掛け頂く親の声をたよりに 只ひたすらに成人の道を歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上により一層自由の御守護を賜り 親心に触れ道を通る人が増して お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願い申し上げます 一同と共に慎んでお願い申し上げます

※お詫びと訂正

本年7月21日発行の『かさおか 第48巻 第6号』「大教会だより」に掲載いたしました人事(6月21日付)の一覧表において、左記の通り印刷ミスがありました。

読者の皆さまならびに関係者の皆様にご迷惑をお掛けしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

【誤】 上原 きよ・

(一覧表中4ヶ所)

【正】 上原 きよ

大教会だより

Ⅱ 教会指令 Ⅱ

◎任命・移転・改称願

府 庄 分教会

*前任 佐藤 サダコ

*新任 森本 忠平

*移転元

広島県三原市八幡町本庄
七四五番地の二

*移転先

立教172年

平成21年11月22日(日)

笠岡大教会

午前8時30分受付開始

青年会笠岡分会総会

おつとめまなび
式典
記念講演

講師 金山 雄大先生
〈淀分教会長、元青年会本部副委員長〉

前へ！前へ！

TENRIKYO
SEINENKAI
KASAOKABUNKAI

<http://kasaokabunkai.blog.shinobi.jp/>



岡山県笠岡市春日台八八

番地

*旧名称・系統位置

府中市・府鮮・府庄

*新名称・系統位置

(大教会直轄)笠晴

☆鎮座祭 立教172年8月15日

☆奉告祭 立教172年8月16日

立教172年7月26日承認

◎第八一八期修養科

自 立教172年6月1日
至 立教172年8月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 横山 逸郎

一ヶ月目 (東城分教会長) 森川 弘志

二ヶ月目 (弓ヶ濱分教会長) 三 阪 泰 人

三ヶ月目 (福岩分教会長) 村 川 和 司

(大江橋分教会長)

了 者

*修 了 者

笠岡 上原 明 勇

芳井 藤井 正 弘

笠岡 仁科 富美子

◎宮繕直属ひのきしん

自 立教172年7月1日

至 立教172年7月25日

瑞雲 豊田 俊美

自 立教172年8月6日

至 立教172年8月20日

多古浦 余村 弘

◎本部食堂ひのきしん

自 立教172年7月16日

至 立教172年7月23日

芳井 山口 晃治

自 立教172年7月24日

至 立教172年7月26日

鶴山 稲見 修一

自 立教172年7月27日

至 立教172年7月31日

陽備 虫明 立生

計 報

高田弘之氏

真府分教会前会長
八月十七日出直されました。
享年 六十九才